戦争・武力に対する態度

対人関係の多様性の影響

○森永康子¹・坂本結里(非会員)¹・中島健一郎¹

(¹広島大学大学院教育学研究科)

キーワード: 戦争, ジェンダー, 多様性

Attitudes Toward War in Japan

Yasuko MORINAGAI¹, Yui SAKAMOTO^{1#} and Ken'ichiro NAKASHIMA¹

(¹Department of Psychology, Hiroshima University)

Key Words: war, gender, diversity

日本では、人々が戦争や武力に対してどのような態度をもっているかを社会心理学的に検討した研究はあまりない。戦いは男性の象徴とみなされてきたが、それは社会が期待する男性の役割や男らしさと関連するのだろうか。もし男らしさや性別役割態度が好戦的な態度の規定因であれば、男女に関わらず、男らしさに価値をおいている人は戦争や武器に肯定的な態度を示すであろう。一方、他者とのつながりを重視する程度によって、好戦的な態度が調整される可能性もある。本研究はこうした点を検討するために、30代と50代の成人男女を対象に調査を実施した。

方 法

対象者 30代50代の成人男女400名。うち回答時間が4分未満の者を除外した361名(30代男性76,女性97;50代男性96,女性97)を分析対象とした。調査はリサーチ会社を通じてweb上で実施した。

調査項目 1.戦争・武力に対する態度:「どんな国も、いついかなる時も強力な軍隊を整えておくべきである」「戦争が正しいこともある」など (Anderson et al., 2006; 6項目, $\omega=.877$)。2.ジェンダー関連尺度:性別役割観(中井, 2000; 4項目, $\omega=.705$)、不安定な男らしさ(Vandello et al., 2008; 4項目, $\omega=.837$)、男らしさの重要性(大石・北方, 2013; 肯定3項目, $\omega=.784$; 否定3項目, $\omega=.813$)。3.他者志向(青木, 2011; 他者への関心7項目, $\omega=.849$; 他者理解能力5項目, $\omega=.792$)。4.対人関係の多様性(対人関係の異質性, 知人の職業の多様さ, 所属団体数)

結 果

- 各変数の平均値について性差を検討したところ、男性は女性よりも戦争・武力に肯定的であり、男性の役割や男らしさも肯定していた。他者理解には性差はみられなかった。
- 戦争・武力に対する態度を目的変数とし、性別×年代ごとに重回帰分析を行った(Table 1)。性別×年代によって戦争・武力に対する態度への影響の仕方が異なることが示された。
- 戦争・武力を肯定する態度の性差にジェンダー関連の指標が影響するかについて、年代ごとに一連の媒介分析を行った。しかし、性別から戦争態度への有意な効果は、媒介変数(ジェンダー関連変数)を投入しても、ほとんど減少しなかった。
- 他者志向(他者への関心と他者理解能力のそれぞれ)は、戦争・武力に対する態度を調整するのだろうか。年代ごとに、

性別×他者志向尺度の階層的重回帰分析を行ったところ、50代において、性別×他者志向尺度に有意な交互作用が見られた。下位検定の結果、他者への関心では、男性は関心が高いほど戦争・武力に否定的であった。他者理解能力については、女性は他者理解が高いほど戦争・武力に肯定的であった。

考 察

戦争・武力に対する態度は、世間に流布しているように男性の方が肯定的であった。しかし、平均値は5段階尺度の中央以下であり男女とも戦争や武力に否定的であり、女性に比べると男性は肯定的な方向にあると考えた方がよいだろう。

こうした男性の戦争や武力への肯定的態度は、男性の担っている役割や男らしさへのこだわりを反映しているという可能性がある。重回帰分析の結果からは、確かに50代男性で伝統的な性別役割態度をもっているほど戦争を肯定する傾向が見られた。しかし、性別と戦争・武力への態度の関連について、ジェンダー関連尺度を用いた媒介分析を行ったが、用いた尺度はいずれも性別による戦争・武力への肯定態度を媒介するほどのものではなかった。つまり、ジェンダー関連ではない要因(社会経済的地位のように性別と関連している要因あるいは生物学的要因など)が影響しているのではないかと考えられる。

一方、他者への関心は50代男性の戦争に対する態度を調整しており、他者への関心が高い男性は、低い男性に比べて、戦争を否定する態度が強かった。この他者への関心を高める要因として、本研究で測定した対人関係の多様性を含めて検討したところ、Fig 1のような結果を得た。地域の団体に所属すると他者への関心が増え、戦争に対して否定的な態度をもつようになることが推測できる。

以上のことから、戦争への態度には性差があること、男性の戦争への態度を規定するのはジェンダー関連の態度ではないこと、また、50代男性に限っては、他者への関心が高いと戦争への肯定的態度は低くなること、他者への関心は多くの団体に所属することによってもたらされることが示唆された。

文献 Anderson, et al. (2006). Development and testing of the Velicer attitudes toward violence scale: *Aggressive Behavior*, 32(2) 本研究は科研費(課題番号263808440)の助成を受けた。

Table1 年代×性別ごとの重回帰分析(最尤法)

	30代女性	30代男性	50代女性	50代男性
	戦争武力	戦争武力	戦争武力	戦争武力
性別役割観	.183	-.186	.010	.255 *
不安男らしさ	-.224 +	.376 +	.244 +	-.148
男価値肯定項目	.031	.041	-.146	.084
男価値否定項目	.251 *	-.132	.224 +	.059
他者関心	-.034	.192	-.002	-.232 *
他者理解能力	-.060	-.129	.256 *	.010
R^2	.088	.064	.180 **	.137 *

Fig1 50代男性の戦争・武力に対する態度を規定する要因

$\chi^2(7)=6.123$ $p=.526$, CFI=1.000, RMSEA=.000, GFI=.980